

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
 (仮称)京阪奈ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.0)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>			<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>				3.2	0.15			3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40			
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	0.60			
2 界壁遮音性能				3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		事務所エリア 床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板		4.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>				3.0	0.35			3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50			
1 室温				3.0	0.38			
2 外皮性能				3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38			
2.2 湿度制御				3.0	0.20			
2.3 空調方式				3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>				3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30			
1 昼光率				3.0	0.60			
2 方位別開口								
3 昼光利用設備				3.0	0.40			
3.2 グレア対策				3.0	0.30			
1 昼光制御				3.0	1.00			
3.3 照度				3.0	0.15			
3.4 照明制御				3.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>				4.3	0.25			4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50			
1 化学汚染物質		各材料については、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極め		5.0	1.00			
4.2 換気				3.3	0.30			
1 換気量		建築基準法及び建築物衛生法を満たし、各室1.0回/h以上の換気		4.0	0.33			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33			
4.3 運用管理				4.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50			
2 喫煙の制御		ビル全体の禁煙		5.0	0.50			
<b>Q2 サステナビリティ</b>					<b>0.30</b>			<b>4.1</b>
<b>1 機能性</b>				3.8	0.40			3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40			
1 広さ・収納性				3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		二重床によりレイアウト変更に対応でき、コンセント容量60VA/m <sup>2</sup> 以上		5.0	0.33			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30			
1 広さ感・景観		天井高3m		5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33			
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画の事前検証		4.0	0.33			
1.3 維持管理				4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		壁:防汚型EPの採用、床:防塵塗装や耐摩耗性塗床等、外壁		4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		十分なスペースの清掃員控室、ゴミ置き場には洗い場、洗濯機2台		4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>				4.4	0.30			4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造		5.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		免震構造		5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		PC板、ECP板等		5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋内一般:亜鉛鉄板、屋外露出・多湿箇所:ガルバリウム鋼板		5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上水SGP、空調SGP、排水VP等		4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				3.8	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備		非常用発電機を完備、無停電電源設備を完備、全ての機器は冗長		5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備		複数の通信手段を引込むW=800のケーブルラックおよび将来用通		5.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.2	0.30		-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり		階高5.5m&6m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		0.048	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		オフィス:10000、一般居室・廊下・共用部:7800	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		十分なスペースの確保	4.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3. 室外環境(敷地内)				0.30		-	3.5
1 生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		植栽により、良好な景観を形成している	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率75%	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							2.8
LR1 エネルギー				0.40			2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.62 モデル建物法(省エネ通判による)	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			1.9	0.50		-	1.9
集合住宅以外の評価			1.9	1.00		-	
集合住宅の評価						-	
4 効率的運用			2.5	0.20		-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		-	2.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング		-				-	
4.2 運用管理体制		-				-	
LR2 資源・マテリアル				0.30			2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		-	3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		N2ガス消火	3.3	0.70		-	
1 消火剤		-	4.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33		-	
3 冷媒		-	3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境				0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が85%	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		十分な駐輪場と駐車場の確保	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音		-	3.0	0.33		-	
2 振動		-	3.0	0.33		-	
3 悪臭		-	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		-				-	
3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 追補版

(仮称)京阪奈ビル

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	3.0	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	8.0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.1 空調・換気設備	4.0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	3.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	13.0		-	2.0	2.0	3.0	2.0	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	1.0	1.0	3.0	3.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び室内照明のうらみに漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム 4.0	屋根	2.0
		外壁	2.0
		床	2.0
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
			ηAH
昼光率	1.5%		
自然換気有効開口面積率	3.3%		

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	6.0m <sup>2</sup> /人	病床	0.0m <sup>2</sup> /床	シングル	0.0m <sup>2</sup> ツイン	0.0m <sup>2</sup>
コンセント容量	60.0 VA/m <sup>2</sup>					
天井高	2.5 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			

想定耐用年数	25年
想定必要間隔	20年
想定必要間隔	0年
想定必要間隔	15年
階高	5.5 m
壁長さ比率	5.0%
床荷重	7000-45 N/m <sup>2</sup>

外構緑化指数	54%	建物緑化指数	0%
空地率	75%	水平投影面積率	25%
		地表面対策面積率	97%
		舗装面積率	12%

BPI/BPI <sub>m</sub>	0.62	断熱等性能等級	等級4 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m <sup>2</sup>	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光	0.0kW
		太陽熱等	0.0kW
		蓄電池	0.0kW
BEI/BEI <sub>m</sub>	再エネ有	0.81	無
		0.81	オフサイト再エネ有
		0.30	-
一次エネルギー削減率	再エネ有	無	-

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	-
	エコマーク商品
	-
	自治体指定の特定品目等
使用比率	0.0%
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	0
地球温暖化係数(GWP)	1430
オゾン層破壊係数(ODP)	0
地球温暖化係数(GWP)	8

見付面積比	66%	階床間隔指標Rw	3.00
地表面対策面積率	136.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積Sb	6,790m <sup>2</sup>	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	348 m
		基準高さHb	29.5 m
緑地	#####	水面	1,862m <sup>2</sup>
		保水性対策面	m <sup>2</sup>
		高反射対策面	m <sup>2</sup>
		再帰性反射対策面	m <sup>2</sup>